

監査系

科目名・単位数	会計職業倫理 2単位	科目分類	監査系	発展科目
配当年次	1年次・春学期・昼・夜	担当教員	はった しんじ	
履修形態	必修		八田 進二	
授業概要	<p>本講義は、会計職業倫理の基礎概念、職業倫理と財務諸表監査との関係について、「理論としての職業倫理」、「制度としての職業倫理」、そして、「実践としての職業倫理」の3つの側面からなる職業倫理の基本的な枠組みについて、国際的にも整合する幅広い視点に立って、この職業倫理上の諸問題に関する最新かつ総合的な理解を深めることを、授業の最終的な目的としている。そのために、日々生起する倫理上の課題ないしは問題等に対する感度を磨くために、複数の日刊紙の継続的な購読を行うことが望まれる。</p>			
到達目標	<p>将来の会計プロフェッションとしての役割を担うために、国際的な感覚を具備して、会計および監査等の専門職業において求められる倫理観の醸成を図るとともに、常に正しい行動を率先することで、信頼と尊敬を受けるに値する会計専門職業人になることを達成目標としている。</p>			
授業方法	<p>全時間の6割程度を講義に使い、残りの時間を、クラスでの全員参加の討議および時間内での課題レポートの作成に使用する。なお、講義の一部は、オンライン授業を採用して、新型コロナ感染症問題への対応を図ることとする。</p>			
事前・事後学習	<p>事前学習として、毎回講義範囲のテキストおよび関連資料等の該当箇所を事前に読んでおくこと。(60分) 事後学習として、毎回、終了後の講義内容について理解を深めるための復習を行うこと。さらに、(60分)提出が求められる課題レポートの作成を行うこと。(120分)</p>			
成績評価の方法	<p>授業を通じて課されるレポート(70%)、授業での討議およびディスカッションへの参加度合い(30%)等を総合的に勘案して、最終評価を行う。</p>			
フィードバックの方法	<p>提出レポートおよび授業内での討議内容についての解説およびコメント等は、授業内で時間を設けて行う。</p>			
履修上の注意	<p>必修科目であり、全員が1年次において履修すること。</p>			
授 業 計 画				
第1回	<p>ガイダンス/職業倫理の基礎概念(1) 本講義のガイダンスを行う。併せて、本講義の導入として、一般の倫理、職業倫理、倫理教育の必要性：倫理とは何かを検討し、倫理教育の必要性の理解を図る。</p>			
第2回	<p>職業倫理の基礎概念(2) プロフェッションの意義・特質について検討したうえ、プロフェッションに職業倫理が不可欠とされる理由および共通の特質について検討を加える。</p>			
第3回	<p>職業倫理の基礎概念(3) 会計プロフェッションの社会的意義および役割、自主規制の中核としての職業倫理について正しい理解を得ることとする。</p>			

第4回	財務諸表監査と職業倫理（1） 財務諸表監査の基本的枠組み、監査人の役割、職業倫理の位置づけ：会計プロフェッションの独占業務たる財務諸表監査の基本的枠組みについて説明する。
第5回	財務諸表監査と職業倫理（2） 監査人の自主規制としての職業倫理の有する意義と役割について説明し、監査人の自主規制の中核としての職業倫理規程の重要性について正しい理解をもたせる。
第6回	職業倫理の基本的枠組み 監査結果が社会的に受け入れられるための条件としての監査人の人的条件、社会的条件等について具体的に説明し、自主規制の下での監査人の自主規制(私的統制)について説明する。
第7回	「理論としての職業倫理」の課題（1） 職業倫理の枠組みを支える「理論としての職業倫理」：会計プロフェッションの職業倫理の枠組みとして、「理論としての職業倫理」「制度としての職業倫理」そして「実践としての職業倫理」の3つにつき順次解説していく。
第8回	「理論としての職業倫理」の課題（2） 規範倫理学、倫理原則、倫理的裏づけ：一般的な哲学ないし倫理学を援用した結果として捉えられる職業倫理の基本となるは、プロフェSSIONナリズムの意味について考える。
第9回	「制度としての職業倫理」の内容（1） 公認会計士制度、財務諸表監査制度、公認会計士協会の倫理規則：倫理的行動を制度的に規制するものとしての法律、規則等が制定されている理由等について、会計プロフェッションの社会的役割との関係から検討を加える。
第10回	「制度としての職業倫理」の内容（2） 倫理規則、懲戒処分、監査業務の品質管理：「制度としての職業倫理」の中心をなす「倫理規則」の内容につき、国際会計士連盟（IFAC）と日本公認会計士協会（JICPA）の双方を比較しながら検討する。
第11回	「実践としての職業倫理」の取り組み（1） 会計プロフェッションの倫理観高揚に向けた取り組みとしての「実践としての職業倫理」につき、専門継続研修（CPE）の意義等およびそこでの課題について検討する。
第12回	「実践としての職業倫理」の取り組み（2） オン・ザ・ジョブ・トレーニング、講習形式の研修、監査現場での倫理問題、事例研究の欠陥、倫理上のジレンマ等、「実践としての職業倫理」の具体的な対応について検討する。
第13回	職業倫理高揚に向けた課題（1） 会計プロフェッションが遭遇する可能性のある「倫理上のジレンマ」ないしは「倫理的判断にかかわるケース」としての複数の事例を踏まえて、自らの頭で考えてグループディスカッションを行い、その結論を発表して、さらにクラス全体で議論を行う。
第14回	職業倫理高揚に向けた課題（2） 会計プロフェッションが遭遇する可能性のある「倫理上のジレンマ」ないしは「倫理的判断にかかわるケース」としての複数の事例を踏まえて、自らの頭で考えてグループディスカッションを行い、その結論を発表して、さらにクラス全体で議論を行う。
第15回	本講義のまとめ 近時のわが国における会計プロフェッションをめぐる倫理上の課題等について、クラス全員で、ディスカッションを通じて検討を行う。
テキスト	八田進二『公認会計士倫理読本【平成28年増補版】』（財経詳報社）2016年 藤沼亜起編著『会計プロフェッションの職業倫理』（同文館出版）2012年
参考図書	藤沼亜起監訳『会計倫理の基礎と実践』（同文館出版）2011年 山田真哉『ウサギはなぜ嘘を許せないのか？』（アスコム）2006年